

ほんま、かいな!

～モリのゆかいなおきやくさん のまきへ～

図書館には時々、「えっ!？」と驚く不思議な利用者さんがやってきます。今回はそんな珍客の方々を紹介します!



やまね便り

50号

特集

世界へ羽ばたく日本の文化!!

MANGA

漫画

大人もうなる! 隠れた名作!

あの人に会いたい

きんだいち ますみ
金田一春彦記念図書館
名誉館長

きんだいち ますみ
金田一真澄さん

とびだせ! としょかんボランティア
～第5回 ブックスタートボランティア～

ほくとてくてく探訪
～八右衛門出口～

北杜市図書館新キャラクター
ブックマン登場!!

司書のつぶやき 「ほんま、かいな!」

ほくと探訪

～北杜市の伝説とその舞台～

はちえもんでぐち

「八右衛門出口」

甲斐小泉駅と甲斐大泉駅間に通じる泉ライン脇、林の中にひっそり湧き出ている湧水「八右衛門出口」を紹介します。

昔、大泉村谷戸に、谷戸八右衛門という人がいた。ある日、1匹の蛇を山火事から助け出したところ、そのお礼に1本の楊枝をもらった。その楊枝を裏山につきさしてみると、そこから綺麗な水がこんこんと湧き出してきた。湧水の傍らに茂っている大木は、その時さした楊枝が根付いて成長したものだという。そしてこの水は、現在もふもとの水田をうるおしている。



2本のトチの大木の根元が湧水源。



今でも、こんこんと水が湧き出ている。

参考資料: 『甲斐の伝説』 土橋里木/著
『泉ライン沿いの湧水と水神めぐり』 きたむらひろし/著

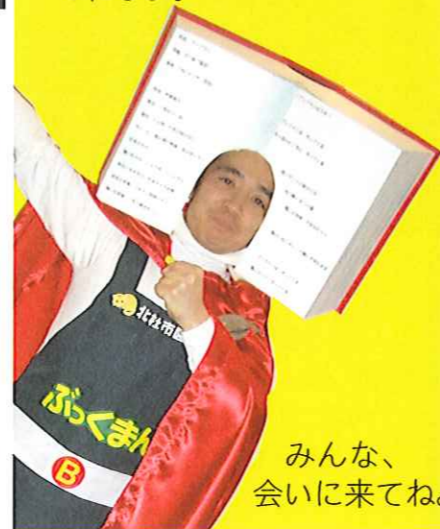
もっと聞きたい

地域にまつわる伝説などを甲州弁で語ります。『八右衛門出口』の語りも聞けますよ!

「甲州弁を楽しもう」
平成26年7月6日(日)
午後1時30分～
ライブラリーはくしゅう

よみぎか戦士 ブックマン登場

ブックマンは図書館の新キャラクターです。ブックマンは、図書館で子ども向けのイベントがあるときに、絵本をよんでくれたり、一緒に図書館の歌をうたってくれるよ。



みんな、会いに来てね。

編集後記 今回は初めてのやまね便り編集でした。専用のソフトウェアを使って作業するのですが最初の頃は使い方が全く分からず、とても時間がかかってしまいました。百忙に間に合うのか不安を覚える毎日でしたが、多くの人に支えられて完成させることができました。(ひ)

『甘美男子茶房』&『甘美男子』

清水ユウ／著 マッグガーデン

甘味処「鹿楓堂」で働く眉目秀麗な四人の着物男子が、お客様の心を甘味のようにあまくふんわり和ませる新感覚なハートフル和風カフェ物語。



北杜市在住の漫画家さん

『うさひよ』

清水アイ／著 マッグガーデン

北都町を舞台に対立する極道組織「うさぎ組」と「ひよこ組」！基本2ページのショートショートには、アットホームで切れの良いギャグが満載。クスッと笑えて男性も文句なく楽しめる。



『玄米せんせいの弁当箱』

魚戸おさむ／漫画 北原雅紀／脚本 小学館

偏食、個食、食の安全…など、最近は様々な「食」の問題がある。そんな難しい問題に触れながらも、玄米先生が食べることの幸せを教えてください、心がほっこりする「食」漫画。



ほのぼの

『聖☆おにいさん』 中村光／著 小学館



神も仏もここにいる！目覚めた人ブッタ、神の子イエス、言わずと知れた仏教とキリスト教の祖が立川にある安アパートで共同生活!?地上に舞い降りた2人の「聖人」が織りなすほのぼの日常コメディ漫画!

『夏目友人帳』

緑川ゆき／著 白泉社

「友人帳」とは、祖母レイコが妖を負かし、奪った“名”を記した契約書。「友人帳」を手にした孫の夏目貴志は、自称用心棒の先生と共に妖たちに名を返す日々を送る…。妖と人の淡いつながりを描いた、心あたたまる物語。



『本秀康名作劇場』

本秀康／著 小学館

本秀康氏はマンガ家兼イラストレーター。もしかしたら、テレビ番組や雑誌などでイラストを見たことがあるかも？本秀康氏独特のかわいいタッチの主人公たちが、笑いあり、ドキドキありのちょっとダークで大人な物語を繰り広げる短編集。



グツとくる

清水アイさんとユウさんは、忙しいときはお互いがアシスタントとして助け合いながら制作を続ける仲の良い美人姉妹。ユウさんはすたま森の図書館でアルバイトをしていたこともあり、「甘美男子茶房」はサイン入りで寄贈していただきました！

世界へ羽ばたく日本の文化！！

MANGA 漫画

大人も「なるほど」隠れた名作！

古典を知る…。

『漫画古典文学シリーズ』

水木しげる 他／著 小学館

あの水木しげるが「方丈記」を、ベルばらで有名な池田理代子が「竹取物語」を、黒鉄ヒロシが「伊勢物語」など、古典文学をベテラン漫画家が原典に沿って漫画化したシリーズ。魅力たっぷりに語られる巻末の作品紹介も見逃せない。



『チェーザレ』

そうりょう 惣領冬実／著 講談社

レオナルド・ダ・ヴィンチが惹かれ、マキャヴェリが理想とした歴史上に実在する英雄チェーザレ・ボルジアの物語。イタリア語の原典から翻案され、史実に沿って正確に描かれているので読みごたえがある！



『花もて語れ』 片山ユキヲ／著 小学館

幼くして両親を失い、様々なことから自信をなくし、うまく口に出して表現することができなくなったハナ。そんなハナが 大人になって再び「朗読」と出会い、物語を声に出して語ることの素晴らしさに惹かれ、朗読を通して成長していく。朗読の奥深い世界が広がっていく。



『銀の匙』 荒川弘／著 小学館

北海道の農業高校に入学した都会育ちの主人公、八軒。普通高校と全く違う想定外の授業や実習にただ戸惑うばかり…。仲間や家畜に囲まれて日々奮闘する姿は、陰ながら応援したくなる。著者は北海道のプロ農家出身。農家の現実をギャグ仕立てで描いた『百姓貴族』（新書館）も合わせてどうぞ。



近年、漫画は日本の文化として世界でも注目されています。今号は大人が読んでもおもしろい漫画の特集です。競技かるたの世界を描いた『ちはやふる』、映画化もされた『テルマエ・ロマエ』や『宇宙兄弟』などおすすめはまだたくさんあります。

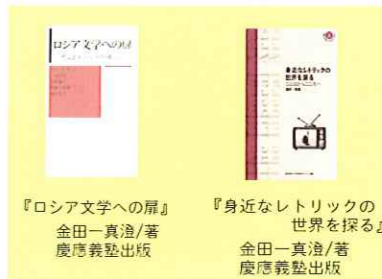
あの人に会いたい

金田一春彦記念図書館名誉館長

金田一真澄さん



1949年東京都生まれ。金田一春彦先生長男。早稲田大学理工学部卒業。東京大学人文科学研究所博士課程修了。文学博士。専門はロシア語学・言語学。現在、慶應義塾大学名誉教授。本年4月より金田一春彦記念図書館名誉館長に就任。



言語学の道へ

初めて八ヶ岳に来たのは48年前の高校2年生のときです。夏休みを利用しての滞在が多かったですね。山小屋の押入れに「やまね」がいるのを見つけて飼っていたことがあります。やまね便りに描かれているイラストを見て当時のことを思い出しました。

幼少のころからおっとりとした性格で父の春彦には「大器晩成型」だからと言われて褒められて育ちました。「大きな器は完成するまでに時間がかかる。真澄は年をとって頭角を現すタイプ」と。今思えば、私に取り柄がなかったのが苦し紛れに見つけた褒め言葉だったのでしょね。父は褒めることがとても上手でしたから。

高校卒業後は大学で理工学を専攻し半導体の研究に関わっていましたが、当時、技術の最先端であるソ連の文献を読むことが多く、次第にロシア語学に惹かれ、本格的に言語学の道を志すようになりました。

レーニン図書館の思い出

職業柄さまざまな図書館を利用してきましたが、中でも思い出に残っているのは、レーニン図書館です。1994

年4月から1年間、モスクワ大学に留学しました。その時に、モスクワの中心にあるレーニン図書館に毎週2回くらい通いました。当時はソ連からロシアに国の体制が大きく変わったばかりでモスクワの治安は悪く、不安な生活を強いられていました。

そのような状況の中でもレーニン図書館内は別世界で、まるで時間が止まっているかのように静かで、しかもとてもアカデミックな空間でした。

レーニン図書館は世界的にも最大規模の図書館で、4000万冊の蔵書があるとされています。蔵書のほとんどは閉架に入っていました。開架式の図書も一部あり、そこでおもしろい本を探すのも楽しみの一つでした。読書室は広くて立派で、よくそこで長時間も粘って本を読みました。今でも、レーニン図書館の入館証は大事に持っています。

北杜市との関わり

北杜市は自然が素晴らしく、生前父もこんなに良いところはないと言っていましたが、中でも思い出に残っているのは、2000年に父が校長として開校した「金田一春彦ことばの学校」は、2006年に私が校長を引き継ぎ

今年で8年目になります。地元の方々と言葉の魅力を語り合い交流を深めてきました。

昨年は長坂小学校の校歌の作詞に関わりました(※1)。統合によって廃校になった日野春小、小泉小、秋田小のことを歌詞の中に残したいという想いをオノマトベ(※2)にのせ表現しました。作詞にあたっては子どもを思う気持ちと故郷を思う気持ちを大切に、子どもが明るくたくましく育つように祈る詞にしました。

※1 歌詞は長坂小学校HPをご覧ください。
※2 擬音語や擬態語、擬声語などを意味する言葉。きらきら、びかびかなど。

名誉館長として

父が愛した自然の美しい土地で、私も図書館の利用者という気持ちを大切にしながら、北杜市の文化活動を盛り上げたいと思っています。その一環として金田一春彦記念図書館で年4回「土曜ことば楽」を開きます。市内の図書館や学校などでも出張講座を予定しています。講座では一方通行にならないようコミュニケーションを取りながら参加者と楽しく心通う場をつくりたいと思います。

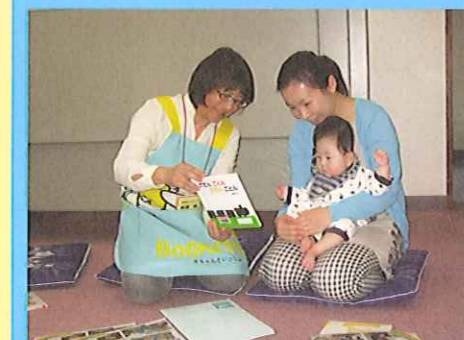
～北杜市図書館を拠点に活動中の図書館ボランティアを紹介～
第5回
ブックスタートボランティア

とびだせ! としよかんボランティア

北杜市図書館では、「赤ちゃん絵本を開く楽しいひとときを分かち合う」きっかけを作るため、平成17年5月より保健師とボランティアの協力のもとブックスタート事業をしています。現在、17名の方がブックスタートボランティアとして活動していただいています。

毎月、高根町保健センターで行われている7ヶ月健診と2歳児健診の時に、一組一組の親子に対してブックスタートの意義を説明したり絵本の読み聞かせや選び方のアドバイスなどを行っています。ときには、子育て談義に花が咲くことも…。

本を通じて、親子のコミュニケーションが深まることを願いつつ、いつも保護者のこころに寄り添いながら明るく元気に活動しています。



北杜市図書館ではボランティアを募集しています。興味のある方は、お近くの図書館までお問い合わせください。

知られざる○○の世界